

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホーム わがの里		
所在地	岩手県北上市下江釣子11地割2番地17		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	平成23年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390600062&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日笑顔が見られ、安心して生活出来るように声かけながら支援しています。家族のようにそばにいて、生活のお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する母体法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等との合同の行事や、各種訓練の協体制作り、保育園児との交流などが行われている。理念は全職員が毎日の日常生活に活かされるよう取り組まれ、それが形となった生活が送られているのが、利用者の表情からもうかがえた。災害対策に備えて、実際に夜間の時間帯に地域協力隊にも参加して頂き、実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」 ・まごころこめて生活のお手伝いをします。 ・家族のようにいつもあなたのそばにいます。 を理念とし、努力しています。	昨年の外部評価の結果を踏まえ、職員全員の会議を開き理念をつくりあげた。ホールに掲示され毎月のグループホーム会議、毎日のミーティング、ノートによる振り返りなど、常に利用者の普段の生活の中に自分たちがいることを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加をしている。 ・鬼の館へ催し物の見学。 ・地区清掃活動への参加	母体法人では自治会に加入しているものの、ホーム独自には加入していないが、市の広報も配布になり、地域行事にも参加している。地区の清掃活動には年3回早朝に2~3名出かけ、区長さんからホームの紹介がある。独自のボランティア等の受け入れは今後の課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアを実践をしながら、認知症への理解を深め、地域に発信出来るように努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの会議を実施している。 ・入居者の生活の様子を報告し、家族や委員の方達からも意見を頂いている。	運営推進会議では、防災訓練についての提言があり、9月に地域の防災協力隊の参加の下、総合訓練を実施した。委員から率直な意見を頂き、サービスの向上に具体的に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に包括支援センターより参加頂いて意見を伺っている。また、地域医療の連携等についてもアドバイスいただいている。	運営推進会議のメンバーに包括支援センターの職員がいるので、地域医療について訪問看護のあり方や、医師との連携(かかりつけ医がそれぞれ違うため)等、さまざまな形で情報を頂きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間や突発的な事が無い限り行なわないこととしている。	母体法人と一緒にリスクマネジメント会議を毎月実施している。玄関にはセンサーが設置されている。マニュアルでの勉強会は気づくことが沢山あり職員全員が共有認識を図り、見守りしながら安心、安全の中で過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演会等に参加し、職員に伝達している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会はまだないが、制度については、聞いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、入居前に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員の中に入居者家族も委員として参加している。 ・面会時に家族の意見や要望を聞くようにしている。	運営推進会議や面会時に、何でも話せるような雰囲気作りに努めている。本人とは一対一でコミュニケーションを図りながら、思いを受け止められるよう支援されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、全員参加で意見を交換している。	毎月母体法人と一緒に幹部会を開催し、グループホームに持ち帰り、職員からの意見、提案を聞きながら実施されている。例えば利用者がベットから移動しやすいように、リクライニングベットを母体法人から2台頂くなどの取り組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の意識などの確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、研修等には参加している。 ・花北ブロックの交換研修に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の自宅訪問等を行い、本人からの話を聞くなどの対応をした。 ・顔見知りになる機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に自宅訪問し、家族の話を聞いて対応した。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いながら、他のサービスの利用状況を確認しながら、入居日を決定するなどして対応した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そばに付き添いながら話を伺い、家族のようにいられるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、生活の様子などを伝えながら本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺いしながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の・親類の来所があったり、自宅の畑を借りて作物を作ったりと自宅周囲の方との関係がある。	理美容院には、家族と一緒に出かけたり、利用者の畑をお借りして、職員と一緒に耕し苗から育てトマトは芽カキの方法を教わりながら、収穫もあり楽しみにしている。利用者の知人に買い物や行事等の参加をお願いしているケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の居場所が決まって来たり、食事は全員で食堂で食べ、顔を合わせる機会にしたりと努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の居宅ケアマネより、退所後の様子を聞くことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活の流れがわかって来たので、本人の通り行っています。話を良く聞き、施設で出来る事は努力している。	利用者の担当を決め、個々の生活歴を把握しながら、日々の話しの中であったり、筆談しながらその思いを感じ取るよう努めている。問題行動を起こすのには、意味があることを良く理解しており、見守りながら一緒に寄り添い生活できるよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に伺っているが、入居後の生活の様子を見ながら、家族から再度伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートに日々の様子を書きながら、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議に、ケアの困難な所を出しその都度話しあっている。また担当者会議も行き、計画の評価も併せて行っている。家族からの意見も求めている。	介護計画は、本人、家族からの要望を聞き、職員会議で、利用者担当の職員からの意見をまとめ計画を立て家族から同意を得ている。見直しも3か月毎に行われ、状態に変化があるときは、随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートによる生活の様子を共有している。個人の計画書2を見えるところに置き、実施の変更があれば記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館を利用したり、知人の協力を得て外出したり、入居前の美容院に行ったりと協力を得ている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続し、家族が通院の支援をしている。	利用者全員が入居前のかかりつけ医となっており家族と受診した時はホームへ、職員が同行した場合は家族へそれぞれ報告をしている。インフルエンザの予防接種も家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化等については、主治医に伺いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等があった場合は、情報提供することはもちろんのこと、入院中の様子を訪問し伺うなど、退院等についても看護師に聞き、家族とも相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入院後の状態変化により、主治医・家族と相談し、特養の入所等の申し込みを行った。施設で出来ないことは伝えているが、家族の希望も伺っている。 ・終末期のあり方については、特に決めていないが、医療的な関わりが多い場合は受け入れが困難である事は説明している。	本人、家族に説明し、了解の下、食べられない状態になったり、医療行為が必要になった場合は医師に指示により、特養ホームへの申込の支援が行われている。現在、体調の悪い方がおり、職員全員が段階ごとに、やれるところまでやろうという意思統一は図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。 定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練は行っている。(4～10月) 地域に特養の地域防火協力隊があり、9月に合同避難訓練を行った。	防災訓練は母体法人と一緒に統合訓練として実施されている。ホーム独自に夜間[18時30分]に地域協力隊3名、母体法人2名、ホーム1名で訓練を実施されている。消防署員から注意点、アドバイスを頂いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への配慮には留意している。	研修会に参加した際は、職員全員が復命書で勉強会を実施している。毎月の職員会議や、申し送りノート等で、禁句の言葉を共有している。特に、排泄、入浴については対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者のペースで話すことが無いよう、入居者の話をゆっくりと聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表があるのである程度の基準としているが、全てその限りでは無く、本人の意向は伺い行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には、希望を聞いている。職員も一緒に食べている。	献立は職員が当番制にして、利用者の担当職員から好みなどを聞いている。日常の調理には利用者は厨房には入らないことにしているが、イベント食での芋煮会や北上コロッケ作りなどは一緒に調理しながら準備、後片付けをしている。知人と外食される方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が立てるが、特養の管理栄養士に栄養面・バランス等の確認をもらっている。食事摂取量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、夜間は入れ歯を保管している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後の排泄介助・随時の介助等を、排泄記録用紙に記録し対応している。	個々の排泄記録表を把握し、トイレで排泄するよう支援している。利用者のなかには、便座に座れない方もいるので、居室でのおむつ交換をし、夜間は定期的に交換し清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後の排泄介助・水分補給・下剤の服薬確認等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を計画し、入浴日・入浴時間(午後)はあらかじめ決めている。 本人の拒否があれば、次の日に声がけしている。	入浴時間帯は午後としているが、希望でいつでも入れるよう対応している。異性の介助を嫌がる方もいるので、同性に配慮している。入浴に消極的な方には、誘い方に工夫しながら支援されている。個々のバイタルの基準を決め記録をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服はほとんどの方が服薬している。 内服の変更時は、薬の効能や用法を申し送り、服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・施設では、近所への散歩・公園へのドライブ。 ・知人との、ショッピングセンターへの買物。	散歩は日曜日に声がけしながら支援している。ドライブにも入畑ダム、江釣子古墳群、公園などに出かけている。利用者の地元周辺や、自宅へのコースは、本人の帰宅願望があったり、家族の事情があり、実施には至っていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・展示スペースを利用し、普段の様子・行事等の写真を貼付している。 ・個人の作品も展示している。	展示スペースを最大に利用し、職員の顔写真から、職員との合同作品のひな人形、紙芝居等やひとり一人の作品の落ち葉の貼り絵、ぬり絵等、北上コロッケ作りを楽しそうに行っている写真が貼られている。畳の小上がりもあり、自由に休める場所でもあり、安心して過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつ・ソファの利用や食堂テーブルの定位置で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみなどを置いている。	ホーム全体が床暖房になっており、ベット、ロッカー、照灯台が備え付けられている。利用者の中には、家族の写真などが飾られており、それぞれが居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置により、歩行支援をしている。		